

文化財 せんだい



No. 132

令和4年(2022年)3月発行
仙台市教育委員会文化財課

仙台市青葉区上杉一丁目5-12
上杉分庁舎 10階

〒980-0011 Tel:022-214-8893

仙台市文化財課

検索

文化財を守り・伝える ～市民の方々の活躍～

文化財の維持管理・整備

裁松院墓所は泉区根白石にある市指定史跡です。裁松院とは、伊達政宗の祖父、伊達晴宗の夫人であった人物です。

こちらでは近隣にお住まいの市民の方に長年、周辺の除草作業を行っていただき、文化財の維持管理に努めていただけていました。また、私有地を見学者のために駐車場として無償で貸し出さずしていただけていました。さらに、すぐ隣にある黒川季氏(黒川氏：大崎合戦で政宗と戦い、大名としては滅亡したが、その後養子の義康は伊達家家臣となった。季氏はその甥にあたる)の墓の一部についても、自費により補修、補強等を行っていただけていました。このようなことから10月、仙台市教育委員会では感謝状を贈呈しました。



裁松院墓所



黒川季氏の墓



教育長による感謝状贈呈の様子



史跡地内のボランティア活動

聖和学園高等学校の皆さんが、史跡陸奥国分寺跡・尼寺跡(若林区木ノ下他)周辺で清掃ボランティアを行っています。これまでガイドボランティアとして活躍していたのですが、新型コロナウイルス感染症対策のためガイド活動が中止となりました。しかし、そのような中でも陸奥国分寺薬師堂ガイドボランティア会の皆様と一緒に史跡地周辺の清掃活動で活躍中です。月2回程度実施していますので、清掃中に通りがかった際にはぜひ励ましのお声掛けをいただけますと幸いです。



また、郡山中学校の生徒有志、60名以上の皆さんが、晩秋に郡山遺跡(太白区郡山)の史跡地内で花を植える植栽活動に参加しました。沿道から見る花壇はとても立派です。花は越冬し、春にもまた咲くと思いますので、親しんでいただければと思います。

このような市民の方々や地域の学校の皆さんの力で、文化財は守られ、次の世代へと受け継がれていきます。



陸奥国分尼寺跡周辺の清掃活動



郡山遺跡内での植栽活動 春にまた咲きますように

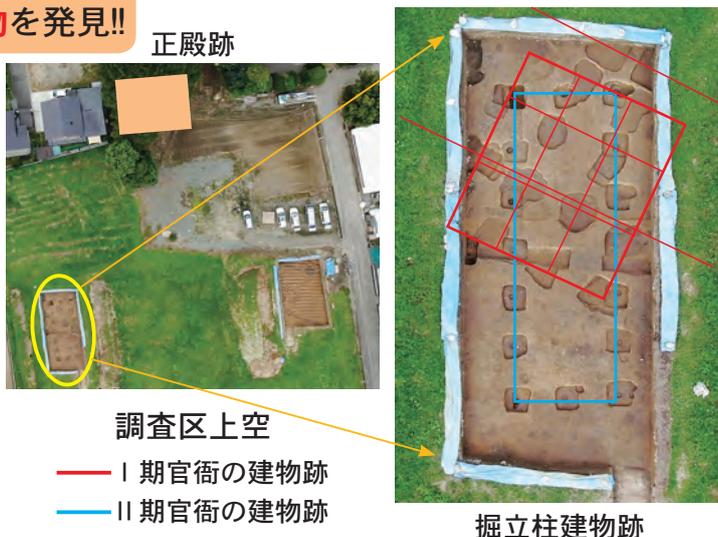
令和3年度 発掘調査速報 part3

郡山遺跡(太白区郡山)

古代の役所の
中心建物を発見!!

郡山遺跡は、飛鳥～奈良時代にかけて、多賀城が造られる前の陸奥国府(国の役所)であったことが分かっており、平成18年に国史跡に指定されています。史跡整備に向け、今年度は官衙(役所)の中心となる建物跡の発掘調査を行いました。

調査では異なる方向に造られた掘立柱建物跡が見つかりました。これまでの調査から郡山遺跡はⅠ期官衙(7世紀半ば～)、Ⅱ期官衙(7世紀後半)の2時期があり、各期の建物跡と考えられます。特にⅡ期官衙の建物跡は桁行12.4m、梁行4.5mの南北に長い建物跡で、正殿の南西部に位置することから、重要な建物であったことが推定されます。また、柱の穴や周囲では土の焼けた痕跡が認められることから、焼け落ちた可能性が考えられます。



大野田遺跡(太白区大野田)

古代と縄文時代の
遺構や遺物を発見!!

大野田遺跡は、地下鉄富沢駅の北東約700mに位置する遺跡です。これまで行われた調査では、縄文時代後期の祭祀(先祖や神をお祭りすることを表す)跡や、古墳時代から平安時代にかけての集落跡、畑跡が発見されており、土器(縄文時代、古墳時代、平安時代)や石器(縄文時代)、多くの土偶(縄文時代)等が見つかりました。

今回の調査では、掘立柱建物跡、溝跡、ピット(柱穴)が見つかりました。これらが機能していた正確な時期は分かりませんが、過去に行われた周辺の調査でも、同規模の掘立柱建物跡や溝跡が見つかり、これらが古代のものであることから、同じく古代のものであると考えられます。

また、縄文時代の遺物を含む層からは、多くの縄文土器や石器(矢じり・石皿)等が見つかり、当時の生活の様子がうかがえます。



掘立柱建物跡



縄文土器出土状況

シリーズ仙台城特集 第6回

多くの市民の皆様から関心を寄せられている仙台城跡の特集です。今年度最後となる第6回は、仙台城東丸(三の丸)の入口にあたる門である巽門跡^{たつみもん}周辺の発掘調査速報をお届けします。

たつみもん

巽門跡周辺の発掘調査

巽門西側石垣の
延長部を確認!!



今回の調査は、築城期の大手道と考えられる巽門登城路の整備に向けて遺構の実態を明らかにするため、登城路の最初の門にあたる巽門付近で実施しました。

調査では、巽門西側石垣の延長部分が確認できました。巽門跡の前面は近代以降に改変を受けていましたが、この石垣の確認により登城路本来の姿を知る手がかりを得ることができました。

石垣は最大で2段分を確認し、それより上部は近代以降の道路建設などによって壊されていることが明らかになりました。発見した石垣は長さ6.9m、高さ0.68mで、石材1つ分の大きさは40～60cmでした。

今回発見した石垣の積み方は、未加工の石材をそのまま積んだ野面積み^{のづらづ}です。石垣の年代については、断定できる出土遺物が無かったため、今後の周辺調査で明らかにしていくことが課題です。

仙台城跡は史跡の整備に向けて今後も発掘調査を継続していきます。調査の成果を基に、より市民の皆様にも愛されるよう整備していく予定です。詳しくは「史跡仙台城跡整備基本計画」(令和3年3月)をご覧ください。

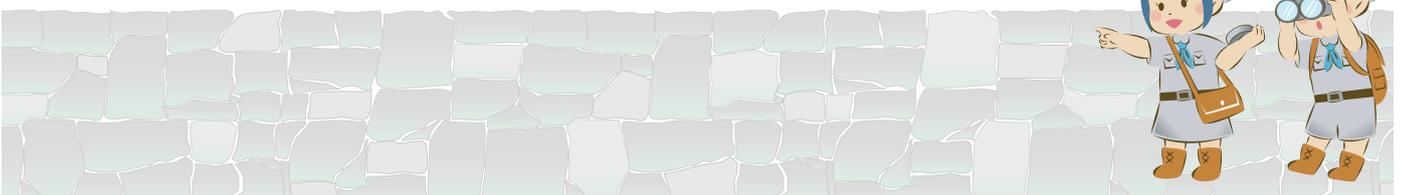
市図書館や当課窓口などで閲覧できるほか、当課ホームページでもご覧いただけます。



調査地点付近



石垣が確認できました



第75回文化財展を開催しました



令和3年11月17日～21日、「せんだいメディアテーク」で『第75回文化財展』を開催しました。2021年は東日本大震災発生から10年目(3652日)の節目の年であることから、テーマを「私たちの3652日～震災復興と発掘調査～」とし、10年間の震災復興に関わる発掘調査成果を中心とした展示を行いました。

当日は、川前遺跡の「岩偶」や中在家南遺跡の「用途不明木製品」など、埋蔵文化財に詳しい方もそうでない方も楽しんでいただけるような遺物を多数展示しました。1年ぶりの実物展示ということもあり、たくさんの方々に足を運んでいただきました。来年の文化財展もお楽しみに。



1年ぶりの実物展示

【川前遺跡で出土した岩偶】

土でできた人形「土偶」は、体の一部が欠けた状態で発見される場合がほとんどです(意図的に欠かして、その部分のけがや病気がよくなるようにと願ったともいわれています)

一方、石でできた人形「岩偶」は、同様にまじないに使われていたといわれていますが、どこかが欠けているような感じはしません。かわいい見た目とは裏腹に、謎に包まれた存在です。



大好評だった「文化財この一年」の上映

第76回文化財展は、令和4年6月頃、東北電力グリーンプラザ とうほく文化情報コーナーで開催予定です。

編集後記

今年度も3回にわたって発行してきました。多くの市民の皆様手に取って読みいただき、ありがとうございました。「文化財せんだい」はこれからも発掘調査の様子やイベント等の情報発信に努めていきます。今後もお楽しみに！最新号は市図書館や市民センター、当課窓口で入手できるほか、当課ホームページにも掲載しています。

・新型コロナウイルスの流行状況により、当課の事業、イベント等につきましては中止や延期となる可能性があります。最新の情報は当課ホームページやお電話等でご確認ください。(表紙上部記載)